

講演「三重県での過去の地震津波教訓、そして次の東海・東南海・南海地震」

講師：都司 嘉宣 東京大学地震研究所助教授

「三重県での過去の地震津波教訓、そして次の東海・東南海・南海地震」と題して講演が行われました。

講演内容は、主に三重県での津波被害について豊富な調査データを基に地震津波の状況を解説したものとなっています。以下にその概要を紹介します。

1. 宝永地震と安政東海地震

1707年に発生した宝永地震(M8.4)と1854年に発生した安政東海地震(M8.4)の被害について、三重県各地の集落別溺死者数等を基に、津波被害の詳細な紹介が行われました。また、古文書に残された津波に関する記述を基に実施された津波浸水高調査状況が説明されました。

さらに、地上2mの高さまで浸水した場合に建物が流されること、船が押し上げられるためには少なくとも地面から0.5mの高さまでの浸水を要すること等により浸水高さを推定したこと、その場合、該当地点でどの程度まで海水が来たことになるのかの調査結果が紹介されました。調査は三重県の沿岸各地に及ぶものであり、現地調査を行った際の豊富な資料及び写真などを用いたもので、個別具体的な状況説明がなされました。

これらをまとめ、宝永津波及び安政津波による三重県沿岸の推定される津波高さが紹介されました。

また、浜名湖や尾鷲市大池湖底の堆積層からも過去の津波の痕跡が分かることが、調査の結果を用いて説明がなされました。

2. 歴代の南海地震

684年の白鳳南海地震から1946年の昭和南海地震まで9回に渡る歴代の南海地震の記録から、南海地震前後に発生する内陸地震群があること、周期的には2035年頃に次の地震が想定されること等が紹介されました。

さらに「外宮子良館日記」等、三重県の日記資料に記録された有感地震が紹介され、宝永地震(1707年)、安政東海地震(1854年)の前には有感地震の少ない時期があったことなども紹介されました。

3. スマトラ沖巨大地震津波に学ぶ

スマトラ沖巨大地震津波地震が紹介され、比較できる地震津波として宝永地震(東海地震と南海地震が同時に発生)があり、このような地震は2000年に3回発生していることが説明されました。また、東海地震と南海地震はペアで起きる関係についても言及がありました。

さらに、東海、東南海地震は約100年に1回の割合で発生していること、従って2000

年で20回発生し、この内3回は巨大地震であるとの説明がなされました。